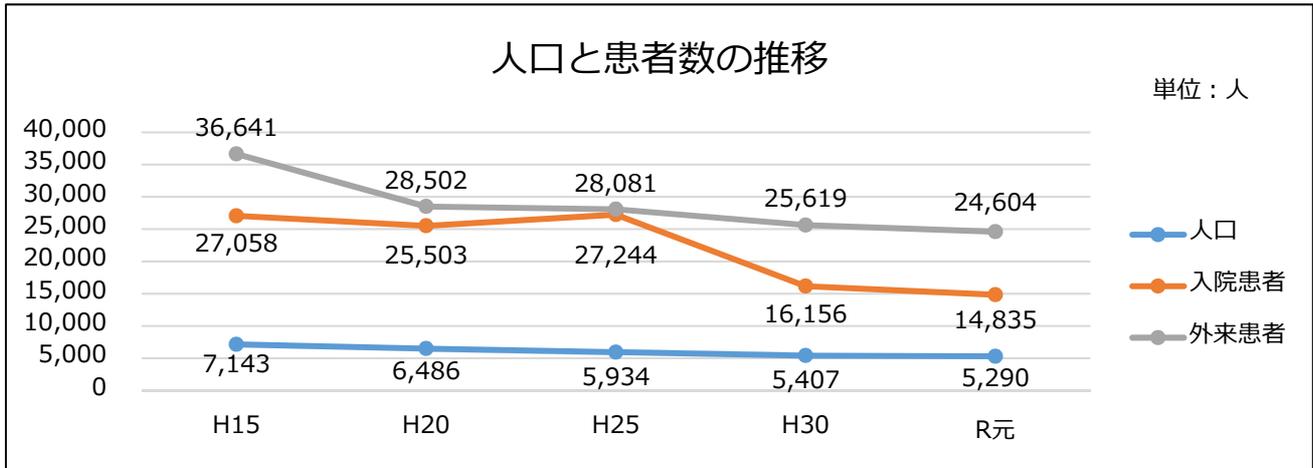


町立病院の経営状況等について

1. 患者数の推移

地域の人口減少や高齢化の進展、医療制度の改革による長期投薬の増加などの要因により、外来患者数は平成 10 年度の 45,801 人をピークに減少を続けており、令和元年度は 24,604 人とピーク時の 53%となっています。

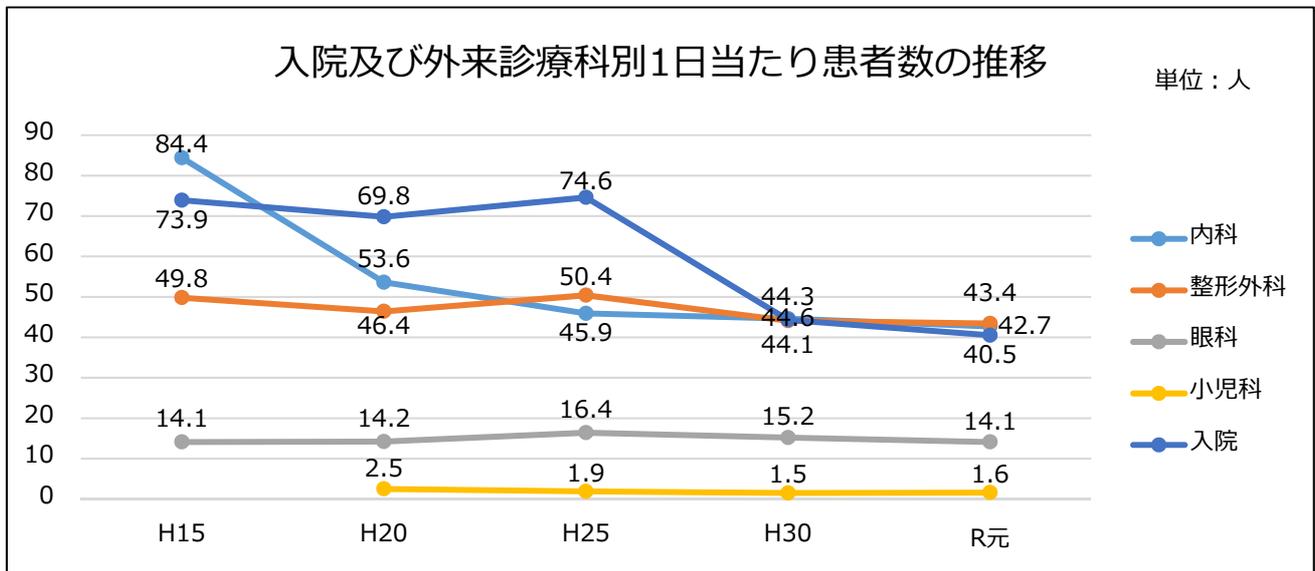
入院患者数は、サービス付高齢者向け住宅の開設により病床を削減した影響もありますが、平成 8 年度の 33,410 人をピークに減少を続けており、令和元年度は 14,835 人と、ピーク時の 44%となっています。



診療科別の 1 日当たり外来患者数は、平成 15 年度と比較して、内科が 49%減の 42.7 人、整形外科が 12%減の 43.4 人、眼科が増減なしの 14.1 人、小児科が開設した平成 19 年度との比較で 23%減の 1.6 人となっています。

内科の患者数の減少が大きくなっているのは、患者層の高齢化により、比較的落ち着いた慢性的な病気の患者様が多いため、長期の投薬を行うことで、診療間隔が長くなっていることが要因の一つと考えられます。

1 日当たり入院患者数としては大きく減少した結果となっていますが、平成 28 年度に病床を削減した影響によるものであり、削減前に 70%台だった病床稼働率は現在 80%台に上昇しています。



2. 収支の状況

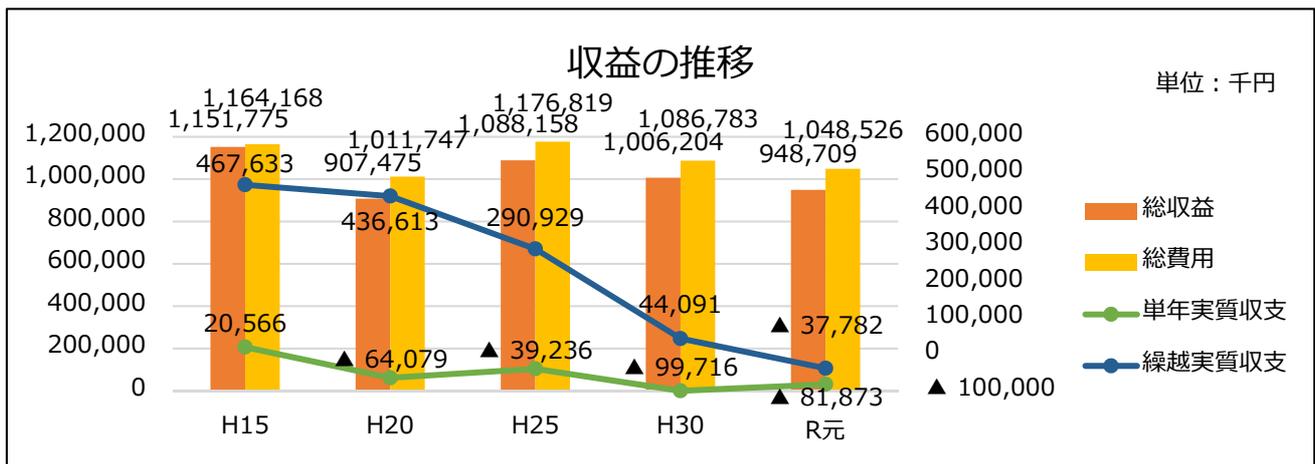
診療や健康診断など医療提供による収益は、平成 15 年度と比較して 35%減の 555,939 千円となっており、医師や看護師などの人件費、病院建物の維持費など、医療提供に係る費用は、平成 15 年度と比較して 10%減の 950,119 千円となっています。

医療提供に係る収益が 35%減少しているのに対して、費用は 10%しか減少していないことから、医療提供に係る収支は悪化している状況にあります。

令和元年度決算では、総収益から総費用を差し引いた純損益が 99,817 千円の赤字、ここから現金の動きを伴わない収支を除いた単年度実質収支は 81,873 千円の赤字となりました。

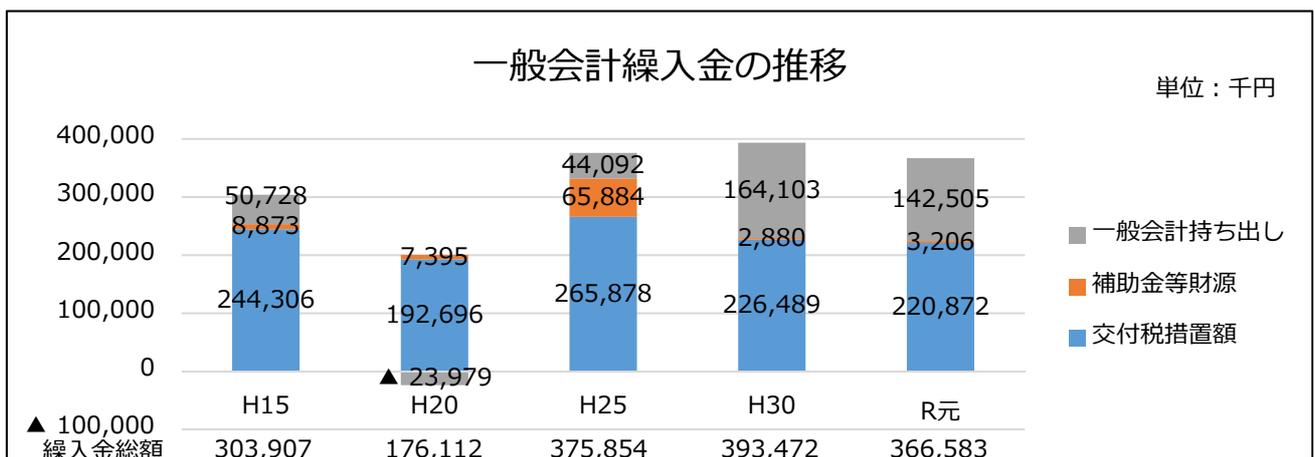
過去からの収益の積み立てである繰越実質収支については、平成 17 年度の 522,465 千円の黒字をピークに減少し、平成 30 年度までは黒字を維持してきましたが、令和元年度には 37,782 千円の赤字となりました。

繰越実質収支の赤字は、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」による「資金不足額」であり、これを病院の本業である診療収益で割り返した比率を「資金不足比率」といいますが、これが一定の割合を超えた場合には、病院の事業活動に一定の制限がかかることから、比率の上昇を抑制していく必要があります。



町立病院のような公立の病院は、過疎地に立地していることが多く、また、不採算であっても地域住民に必要な医療を守っていく役割を担っていることから、町の一般会計から一定のルールにより資金の繰り入れをすることが認められています。

この一般会計繰入金については、事業の実施状況や収支の見込みにより変動していますが、平成 15 年度以降おおよそ 2 億円から 4 億円の範囲で推移していますが、近年は病院の改革プランに基づく金額を上限に繰り入れを行っています。



3. 町民アンケート結果

町立病院のあり方に関するアンケート調査を4月から5月の期間で、無作為抽出した1,200人を対象に実施し、回収率は52.8%、回収数は634票となりました。

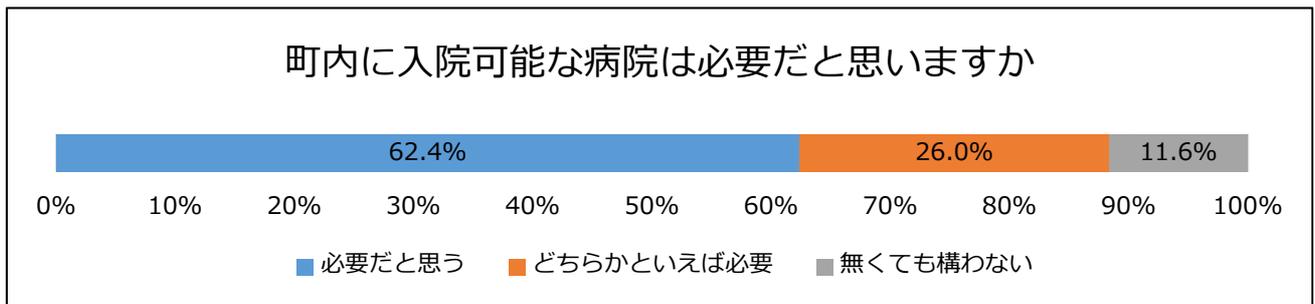
「通院している病院」に関する調査結果は次の表のとおりで、最も利用する医療機関が「町立病院」と回答した人については、回答者全体で見た場合よりも65歳以上の高齢者の割合が高くなっています。

「通院手段」や「通院先を選んだ理由」も調査しましたが、町立病院に通院している人は、「自分で車を運転」して通院している人の割合が全体よりも低く、「タクシー」や「徒歩」で通院している人の割合が高い傾向であり、病院を選んだ理由についても、「近くて便利だから」という回答が多かったことから、通院手段が限られてくる高齢の患者さんに多く利用いただいている実態が見えます。

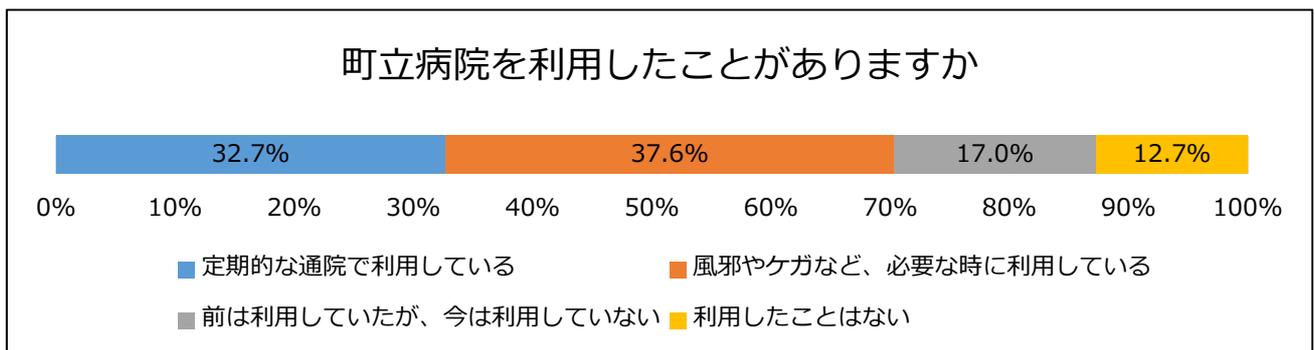
	最も利用している医療機関		町立病院と回答した人の年齢割合		全回答者の年齢割合	
	町立病院	その他	64歳以下	65歳以上	64歳以下	65歳以上
内科	38.8%	61.2%	37.5%	62.5%	44.1%	55.9%
整形外科	40.6%	59.4%	40.0%	60.0%	51.3%	48.7%
眼科	45.8%	54.2%	36.7%	63.3%	52.8%	47.2%
小児科	11.9%	88.1%	-	-	-	-

「入院先の医療機関」では「砂川市立病院」と回答した人が56.3%と一番多く、「町立病院」と回答した人は8.6%でした。

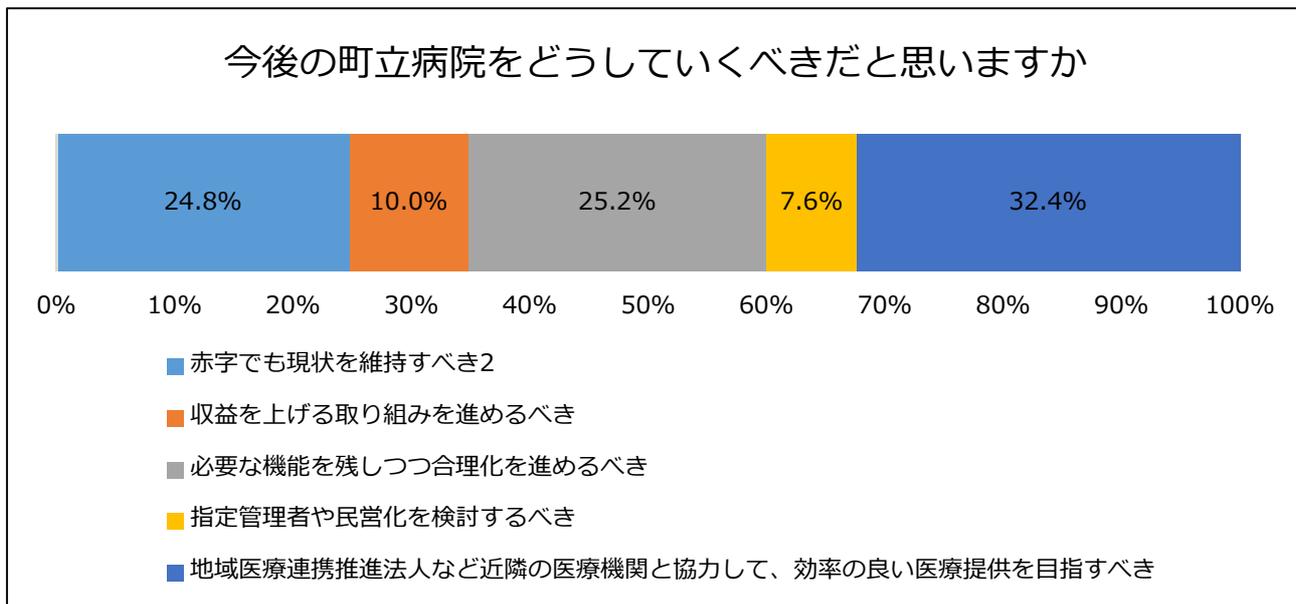
「町内に入院可能な病院は必要だと思うか」との問いには、「必要」「どちらかといえば必要」と回答した人の割合が88.4%となりました。年代別に見ると、若い人ほど「必要ない」と答えた人の割合が高くなっており、29歳以下では33.3%が「なくて構わない」と回答しています。



「町立病院を利用したことがありますか」の問では、70.3%の人が「定期的」又は「必要時に利用している」と回答しており、この問についても年齢が上がるにつれて定期的に通院している人の割合が高くなっています。



「町立病院を今後どうしていきべきだと思いますか」の間には、「地域医療連携推進法人など他の医療機関と協力して効率の良い医療提供を目指す」という回答が一番多く32.4%、次いで「ベッドを減らすなど合理化を進めるべき」という回答が25.2%、「現在の診療体制を維持するべき」という回答が24.8%となりました。



「現状を維持するべき」という回答は、年齢による差が大きく、29歳以下が8%だったのに対して85歳以上は40.9%となるなど、町立病院を利用している人の多い高齢の年代では「現状維持」を望む意見が多い一方、「合理化を進めるべき」という回答の割合は低くなっています。

全体としては、行動範囲の広い若い年代の方は、入院・外来とも自らの選択で近隣も含めた病院を利用している傾向となっているが、交通手段が限られる高齢の人ほど近くにある医療機関を選択していることが分かります。

今後病院のあり方については、経営の効率化を図ったうえで一定程度の医療機能を有した病院の存続を望む意見が多かったという結果になりました。

町立国保病院の概要

開 設：昭和37年5月（現在の建物は平成7年4月から使用）
 延 床 面 積：6,489.46 m²（うちサービス付高齢者向け住宅 1,150.62 m²）
 構 造：鉄筋コンクリート造 地下1階、地上4階
 外来診療科目：内科、整形外科、眼科、小児科
 病 床 数：50床（医療療養病床）
 常 勤 医 師：4名（内科3名、整形外科1名）
 非 常 勤 医 師：内科、眼科、小児科
 職 員 総 数：73名（職員45名、会計年度任用職員等28名）
 併 設 施 設：保健センター、サービス付高齢者向け住宅「あんしん」、介護老人保健施設「健寿苑」（社会福祉法人運営）